

## ド 神岡ドローンフェスwith飛騨ミュージックファーム ドローン体験やバンド演奏を楽しむ

10月5日(土) 神岡町 流葉スキー場

神岡町の流葉スキー場で5日、ドローン体験や地元バンド演奏などさまざまなイベントを楽しむ「神岡ドローンフェス with 飛騨ミュージックファーム」が行われ、子どもから大人まで大勢の来場者が訪れました。

イベントでは、ドローンパイロットの高梨智樹氏が操縦するドローンのリアルタイム映像の視覚体験や徳島県那賀町ドローン推進室によるドローン操縦体験、ドローンジョブプラスによるドローンゲーム、ラジコンレース大会や地元バンドによる演奏が行われました。

訪れた来場者は、体験や演奏を楽しみながらイベントを満喫していました。



ドローン体験に挑戦する来場者

## 生 飛騨市終活支援センターがオープン 生前からの終活を支援

10月1日(火) 飛騨市社会福祉協議会

飛騨市は1日、生前からの終活を支援する「飛騨市終活支援センター」を古川町公民館内の飛騨市社会福祉協議会に開所しました。

終活支援センターは、市から業務委託された同協議会が運営し、遺族になられた方や生前に準備をしたい方に、遺族の手続きや生前の遺産整理などについて、専門的な知識を持つ終活アドバイザーが相談によりアドバイスします。

湯之下副市長は「今後市民の皆さんには気軽に相談していただき、ご意見ご要望をお聞きしながら支援を充実していきたいと思います」とあいさつしました。



除幕をする関係者ら

## 宇 飛騨市が「東京大学<sup>しよくもん</sup>宇宙物理学研究で連携 環境整備に貢献

10月8日(火) 東京大学伊藤国際学術研究センター

東京大学は8日、同大学宇宙線研究所の研究環境整備や広報活動に貢献したとして市へ「東京大学<sup>しよくもん</sup>賞」を贈りました。

同賞は寄付や協力で感謝を示すため、同大が毎年贈っているもので、市は2017年に宇宙線研究所と連携協力協定を締結し、ふるさと納税を活用して若手研究者の研究環境の充実に貢献したほか、ひだ宇宙科学館カミオカラボの開館や、研究施設の一般公開も共同で行い研究の周知に貢献したことから賞を受賞しました。

受賞式は、同大学伊藤国際学術研究センターであり、都竹市長が五神真同大総長から表彰を受けました。



東京大学<sup>しよくもん</sup>賞を手にする都竹市長

## 歌 河合小学校で歌舞伎教室 舞伎教室で役者になりきる

10月3日(木) 河合小学校

地元の伝統文化である歌舞伎を学ぶ「歌舞伎教室」が3日、河合小学校が行われ5、6年生の児童15人が独特の化粧「隈取り」などを体験しました。

授業では、美濃歌舞伎博物館相生座の小栗幸恵館長が講師を務め、歌舞伎の歴史やせりふ回し、所作を熱心に学びました。

また、化粧の指導も行われ、児童たちは鏡を見ながらおしろいを塗り、資料を参考に目尻や鼻の周りに赤や青、茶の顔料でラインを入れました。

参加した児童は「化粧をするのは初めてだったけど、丁寧に教えてもらえて楽しかった」と話してくれました。



隈取りをする児童

## 紅葉の天生で安全確認

10月16日(水) 河合町 天生県立自然公園

天生県立自然公園で、入山者への自然保護啓発を行う秋の合同パトロールが行われました。

このパトロールは、市と白川村、飛騨森林管理署などをつくる同協議会、県、県警などによる合同パトロールで、園内動植物等の摘み取りや登山道の踏み荒らしなどを未然に防止するために毎年開催しています。

この日は、各機関の関係者14人が参加。参加者は天生駐車場を出発し、途中で二手に分かれ全コースを回り、倒木の危険性がある箇所や登山道の杭、台風の影響で倒木した箇所の確認をしました。



公園内をパトロールする関係者

## 市内の園児らが火災の怖さを学ぶ

10月9日(水) 宮城保育園

市消防本部による防火教室が9日、宮城保育園で行われ、同園の未満児から年長までの園児約100人が火災の怖さを学びました。

この教室は、市内の保育園児に火災の怖さを知り、消防を身近に感じてもらうと同本部が実施しています。

この日は、市消防団女性分団員から地震をテーマにした紙芝居が披露された後、消防士から「避難の時は『お・は・し(押さない、走らない、しゃべらない)』を思い出しましょう」と避難時の注意を呼びかけました。

また、無害な煙の中を避難する体験や放水見学、消防士の服を着た記念撮影なども行われました。



ハンカチで口を押え避難体験をする園児ら

## 新 第14回飛騨新そば祭り

そばの香りを堪能

10月19日(土)・20日(日) 市宮若宮駐車場

飛騨地域のさまざまな手打ちそばが味わえる「飛騨新そば祭り」が19日と20日の2日間、古川町の若宮駐車場で開催されました。

祭りは、市そば振興組合や市観光協会などがつくる実行委員会が特産化を目指す飛騨そばをPRしようと毎年開催しており、今年で14回目の開催となります。

この日は、朝霧そば、そば処すごう、蕎麦正なかや、万波そば、流葉・信包そばなど飛騨地域の6店が出店し、かけ、ざる、なめこ、天ぷらなどの多彩なそばが販売され、来場者は各店のそばの食べ比べをしたり飛騨の新そばを存分に楽しみました。



新そばを味わう来場者

## 飛騨の収穫祭2019

夜限りの幻想的なレストランで料理を楽しむ

10月13日(日) 古川町 円光寺

市の豊かな水で育った野菜、お米や薬草を食べて楽しむ「飛騨の収穫祭2019&ナイトマルシェ」が13日、古川町の円光寺で開かれました。

ハーベストディナー(野外レストラン)では、一夜限りの予約制レストランがレトロな電灯が灯る円光寺本堂に開店。飛騨で活躍する料理人の藤原会美さん、小倉夕子さんが調理した料理が、本堂を囲んだテーブルの飛騨産シラカバやスギのお皿に並べられました。

ハーベストディナーが始まるとキャンドルやランプで照らされる中、参加者らは運ばれてきた料理やお酒などを一夜限りの幻想的なレストランで楽しみました。



料理やお酒を楽しむ参加者



## 親子DEレモンクッキング教室 レモンを使った料理を体験

10月26日(土) 古川町公民館

古川町公民館で「親子DEレモンクッキング教室」が開かれ、市内の親子ら25人が参加しました。

この教室は、市が進めている食育推進事業の一環で、ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)との協働で毎年行われており今年で6年目です。

教室では、レモンに関するクイズでレモンの働きやカルシウムの摂取について学んだあと、古川町で飲食店を営む割烹料理克己の堀之内雄治さんを講師に招き、堀之内さんが考案した3品の料理に挑戦。参加した親子らは、ポッカレモンを使った料理を手際よく調理し、おいしくいただきました。



料理に挑戦する参加者

## 獅子舞9社が勇壮に舞を披露

10月20日(日) 神岡町 神岡城周辺

市内外の獅子が集う「第48回神岡飛騨獅子まつり」が20日、神岡町の神岡城周辺で行われ、市民や観光客ら約4,200人が会場を訪れイベントを楽しみました。

この日は、神岡町の森茂獅子保存会、大津神社獅子社中、古川町の水穂神社若社中、袈裟丸諏訪神社、河合町の小雀獅子保存会、宮川町の宮川伝統芸能保存会、北振若連中など9社が獅子舞を披露し、来場者は各社中の特徴ある獅子舞に大きな拍手を送りました。

また、旭保育園児による遊戯や神岡中学校吹奏楽部による演奏、神岡エイサー、特産品などのバザーも行われ、多くの来場者でにぎわいました。



へんべ獅子を披露する宮川伝統芸能保存会

## ふるさと学校給食 元産の米や牛肉で給食

10月29日(火) 古川小学校

地元の農産品に注目し、生産者の思いや食材への感謝を学ぶ「ふるさと学校給食」が29日、市内の小中学校で実施されました。

この日は、古川小学校5年生の児童80人が沖畑康子教育長と飛騨牛を産んだ経産牛を肉牛として育てる試みを続けている蒲生畜産の蒲生清一郎さんから食育授業を受け、地元農産品の特徴や牛の種類食肉の格付け、経産牛について学びました。

授業の後、児童らは各教室で飛騨産コシヒカリの新米ごはん、経産牛のステーキ、秋野菜のみそ汁など地元の食材で作られた給食をおいしくいただきました。



経産牛について説明する蒲生さん

## 飛騨まんが王国ドローンパークオープン キー場跡地を有効活用

10月21日(月) 宮川町 飛騨まんが王国

飛騨まんが王国に21日、「飛騨まんが王国ドローンパーク」がオープンし、そのオープニングセレモニーが開かれました。

ドローンパークは、白木ヶ峰スキー場の跡地の約5万平方メートル(東京ドーム1個分)、直線距離最大400メートルの敷地内を使用しており、無料ドローン飛行場としては国内最大級のドローンパークです。

この日は、同施設でオープニングセレモニーが行われ、施設管理を行う(株)飛騨ゆいの清水和也社長や都竹市長、その関係者らが出席し、あいさつの後、市消防本部によるドローンのデモ飛行が行われました。



ドローンを手にする清水社長と都竹市長